

平成 14 年度第 3 回幹事会議事録

開催日時：平成 14 年 12 月 11 日（水）11：00～15：00

開催場所：砂防会館

出席者：佐々会長，落合専務理事，広嶋総務部長，丸井事業企画部長，福岡国際部長
前田北海道支部長，阿部編集出版部長代行，田口事業企画部長代行
榎田研究調査部長代行，伴庶務委員長，小林財務委員長，古谷理事
中村理事，川上理事， ，永井事務局長

議 事

会長挨拶

資料確認

報告

1．前回議事録の確認

出席者の指摘により以下の語句を訂正した。

- ・発起会を第 1 回代表者会議に訂正する。
- ・PL を IPL に訂正する。
- ・次回幹事会を理事会に訂正する。

2．ICL 加盟について

- ・臨時理事会で可決された。

審議事項

1 各部・各支部の平成 15 年度事業計画・予算案

1.1 事業計画部

a 総会、シンポジウムは 5 月 30 日に東大弥生講堂にて開催の予定。テーマは学会誌特集号とタイアップする計画である。

b 研究発表会は 8 月 19 日から 22 日に富山県で開催の予定。

地すべりの学術的定義について特別セッションを設ける。また、発表部門の区分を新しい（広義の）地すべり定義に基づいて見直す予定。

平成 14 年度から発表申し込みと原稿提出日を同時とした。このことを会員に判りやすく示す。

発表者への通知等はホームページを通じて行う。

c 若手研究者の会、特別講演会、有限要素法講習会を計画している。

d 子供地すべり学会の具体的内容は検討中。継続的に実施していきたい。科学研究費から補助金がでるので活用すると良い（次年度以降の課題）。

1.2 編集出版部

a 学会誌は平成 15 年度から年 6 回発行になる。100 ページ/巻程度の規模にする予定。

b 用語集作成スケジュールは以下のとおり。

平成 14 年度中に原稿作成を完了。15 年度に全体調整を行い発刊する予定。

内容は、13 テーマについての論説の形をとり、その中で用語の解説を行う。これを用語集「前編」として出版する。

CD 化については今後の課題とし、とりあえず索引を充実させる予定。

（幹事会出席者から価格について再考する必要があるのではないかという意見があった。）

1.3 研究調査部

a 研究委員会は既存の 3 委員会に加えて新規テーマの 1 委員会を追加する予定。

b 平成 15 年度受託業務の予定は 2 件。公共事業費の 1 件の他に振興調整費の数百万円が追加される予定。

c 受託業務の在り方について研究調査部で協議を行う。共同研究、受託研究を取り入れる等、業務成果を利用できる途を探る必要がある。

1.4 総務部

a 会員名簿を整理して幽霊会員を削除したため、正会員 1,950 名、学生会員 43 名になった。平成 15 年度は会費値上げをしても会費収入の伸びは小さい。

b 会員を増やす施策のたたき台を総務部で作成する。会員のメリットを明示する必要がある。

c 地すべりの学術的定義（広義の地すべり）も会員拡大の鍵になる。他学会会員の研究者も呼び込む必要がある。

d 若手研究者の育成の面から見て学生会員数も少ない。

e 団体正会員は購読会員に変更作業中。購読会費は学会事務センターと契約して学会誌を年間 200 部売り切りすることになった（契約単価 7,000 円；購読会費は 1 万円）。行政庁等にも購読会員になってもらうことが可能である（積極的な売り込みを……）。

f 会員証発行を実現させる。ホームページを充実させる。

g その他、出席者の意見等は以下のとおり。

技術書などの出版も収入になる。

他学会でも地すべり研究に算入してきている。日本地すべり学会は「新 Landslide」研究の中心になるべきであり、他学会の先に行く仕事をしなければならない。

研究発表会などの PR では分野拡大（「新 Landslide」）について強調し、参加者、会員の拡大を図る。外部から見て活動内容が理解されやすいように広報する必要がある。このことについては教官への働きかけも重要課題である。

「新 Landslide」に関しては、他学会との合同シンポジウムなどの実現も必要。とりあえず次回シンポジウムで他学会の意見を聞くと良い。

1.5 国際部

・ Landslide News は平成 14 年 2 月に発行の予定。

2 ICL 参加に伴うジャーナル等の取り扱いについて

- a ICL の第 1 回代表者会議での議決内容を学会誌で発表する。
- b ICL ジャーナルの扱いは Landslide News と併せて編集出版部と国際部で協議する。
- c ICL への関与についての以下の討論内容は、理事会には報告にとどめる。

Q : ICL に定款はあるか？

A : '02/1 月の会議で定款と会長（佐々教授）が決定している。会計年度は暦年と同じ。たとえば'02 年度会費は'03 年度に使われる。'02 年分の当学会負担会費は科学研究費，振興調整費等で支弁した。

Q : 国際支援員募集について。

A : 地すべり学会正会員であることが条件（他学会にも働きかける用意はある）。支援員特典（Web 版ジャーナル，ICL メンバーシップページの閲覧権）がある。

Q : ジャーナル等の取り扱いについて。

A : Landslide News は ICL ジャーナルに移行したい。京大では ICL ジャーナルを手がけると Landslide News までは手が回らない。

Q : ICL ジャーナルと他のジャーナルとの関係。

A : 国際的な支援を受けて発行できるもので、国際指導による国際ジャーナルと位置づけられる。日本地すべり学会はその一会員に過ぎない。したがって、編集方針は国際的要求に基づく（京大が中心となって編集作業をするが……）。

Q : 日本地すべり学会の将来との関係，メリットは？

A : 国際組織，ジャーナル，国際プログラムがあって初めて国際的に認知され，評価される。平行して，（指導的立場にある）日本地すべり学会も評価があがる。

Q : Landslide News の廃止（ICL ジャーナルへの移行）は会員サービスの低下につながる可能性がある。

A : ICL サブメンバー（国際支援員）に加入できる当会員は安価で Web アクセス権が得られ，ダウンロードも可能になる。

Q : Landslide News を廃止して良いものかどうか？ 会費値上げに対する会員サービスとして学会誌の年 6 回発行で十分かも知れないが，Landslide News をどうするかを明確に説明する必要がある。たとえば，編集出版部に移すなどの対応を検討する必要があるのではないか。

A : 学会誌の英文論文は年間 10 本程度ある。これを ICL ジャーナルに移すかどうかは投稿者の判断である。学会誌としては英文の受付廃止は考えていない。Landslide News が加わることは別の問題であり，国際部と編集出版部との協議が必要。

以上

（記録：伴 要）